

■ 観点別教科書の特徴

高校生の美術 1 (116-日文・美I-305)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、美術を通して生徒の「感性」を高め、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。	● 教科書全般
「美術I」の目標との関連	● 学習指導要領に示された「美術I」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」とともに「芸術文化についての理解」を深めることができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材の設定については、中学校美術の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	● 表現題材では、「発想や構想」の手がかりとなるように参考作品を多く示すとともに、制作過程を示して「創造的な技能」も併せて学べるように配慮した。 ● 鑑賞題材では、「自然と美術とのかかわり」や「生活や社会を心豊かにする美術の働き」について理解を深められるように作品を精選して示した。 ● 我が国の伝統的な美術や諸外国の美術文化について理解し、尊重する態度を養うために表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	● ページ数を大幅に増やし、題材の情報量と学習に役立つ資料の充実を図った。 ● 「ねらい」「リンク」「実物大」「課題」「作家の言葉」をマークやイラストレーションで示し、それぞれ関連付けて学習できるように工夫した。 ● 各題材に学習のねらいを明確に示し、生徒が学習に取り組みやすいように留意した。 ● 必要に応じて用紙を変え、項目区分をわかりやすくする工夫をした。	● 教科書全般,100～153 ● 教科書全般 ● 6,10,12,14,18,22,24,26,30,36,38,40,42,44,51,54,56,60,62,64,66,68,70,74,76,78,80,82,84,86,88,90,94,96,98 ● 29～36,101～124
内容の程度、正確性への配慮	● 掲載作品には、解説文や作者の言葉をつけて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名をつけるなどして、学習に役立つよう配慮した。 ● 作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確で、わかりやすい表記を心がけた。	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	● 身の回りにあるデザインから学習する題材を設定するなど、今日的な内容を積極的に取り上げた。 ● 環境をテーマにした題材や自然とかかわるイベントなどを取り上げ、環境への意識が高まるように配慮した。 ● 美術と触れ合う環境としての美術館を取り上げ、解説した。	● 66・67,68・69,74・75,78・79 ● 4・5,62・63 ● 151・152
人権尊重などへの視点	● 表現や鑑賞を通して、さまざまな人たちとの共生や社会とのかかわり、福祉の視点から題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ● 年表の「美術・一般史」の日本の項目について、色を変えるだけでなく文頭に●をつけるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。 ● 生徒が美術を学ぶことの意義や将来像について、実感を持って考えられるように配慮した。	● 20,74・75,84,87 ● 103～106 ● 153
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	● 日本美術の題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるよう工夫した。 ● 資料として美術史のページを設け、「西洋」「日本」「近代デザイン」「映像メディア」について、豊富な作品例をあげ、テーマによって詳細に解説した。	● 26～35,36,38・39,64・65,98・99 ● 100～124

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	● 「美術I」で学ぶべき基礎的、基本的事項をしっかりと学習できるように題材を設定し、さらに制作過程や説明図を入れるなどして、理解が深まるように工夫した。 ● 「技法・色彩」の資料ページを設けて、学習の助けになるように詳しく説明した。特に色相環のページは、本の外側に広げられるようにして、どのページでも参照できるように工夫した。	● 10,12・13,17,22,28,31～33,37,39,46,52,57,59,64,73,75,79,81,83,85,88,95 ● 125～150
美術への関心・意欲・態度についての配慮	● 生徒が興味・関心を持てるように、生徒の身近にあるものや漫画、アニメーション、ゆるキャラなどを取り上げた。 ● 生徒が親近感が持てるように、生徒作品も多く掲載した。 ● 日本の伝統的な美術文化である、判じ絵をクイズ形式で取り上げたり、錯視の図版を掲載することで、生徒が楽しみながら学習できるように配慮した。	● 9,40・41,78・79,94・95 ● 7,9,17,19,21,25,41,73・74,79,93,95,97 ● 22・23,31～33
発想や構想の能力への配慮	● 「美術I」の「4 内容の取扱い」(3)の内容を踏まえ、デッサンやスケッチ、下絵などを示して作家の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、生徒が発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。	● 6・7,17,25,52・53,57,59,62,70,73,75,95,97
鑑賞の能力を高めるための配慮	● 生徒が実際の作品の大きさを体感し、作家の表現の工夫を読み取ることができるように、原寸大で作品を掲載するページを設定した。 ● 両観音で開くページを設け、大画面で鑑賞したり、美術の変遷を把握したりすることができるように配慮した。 ● 作品を掲載している作家をイメージしたイラストレーションと作家の言葉を掲載して、作家の考え方などに触れられるように工夫した。 ● 浮世絵のページには、特別な紙を使用し、浮世絵の質感が味わえるように工夫した。	● 6,45 ● 31～34,47～50,103～106 ● 8,12,14・15,20,23・24,31,41,43～45,52,56 ● 30～35
他教科や中学校美術科との関連	● 「漫画」「美術館での鑑賞」など中学校美術科の内容を受けて、生徒の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ● 今後の進路検討などの参考になるように、巻末に「これからの私と美術」を設定した。 ● 資料の「美術史」では、文化的な背景や歴史の流れから、我が国及び諸外国の美術文化を総合的に理解できるように工夫した。	● 40・41,151・152 ● 153 ● 100～124

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	● 美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。また、印刷用紙も印刷に最適な用紙を厳選した。	● 教科書全般
製本	● 判型はA4判とし、製本方式は、折ごとに糸でかがり表紙を付ける網代形式で、破れにくく堅牢な造本にした。 ● ページ数を大幅に増やし、表紙を入れて154ページとした。	● 教科書全般
安全性について	● 印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、教科書を使用するに当たっての健康上の安全性に留意した。	● 教科書全般
環境への配慮	● 用紙は、表紙・本文とも再生紙を使用し、環境への配慮を十分にした。	● 教科書全般